

< アジア版エラスムス教員派遣報告書 >

氏 名	秋津 元輝	所属 京都大学大学院農学研究科 准教授
研究テーマ	中国およびタイにおける農村社会の変貌および農産物をつうじた産消関係の発展に関する現地調査と研究交流	
【派遣先大学・研究機関・研究科名】 華中師範大学・中国農村問題研究センター チュラロンコーン大学・社会科学研究所		
【派遣先都市・国名】 武漢・中国 バンコク・タイ		
【派遣期間】 2012 年 6 月 4 日 ～ 6 月 17 日（中国） 2012 年 6 月 17 日 ～ 7 月 21 日（タイ）		
【受入研究者】 劉義強（華中師範大学） スリチャイ・ワンゲーオ（チュラロンコーン大学）		
【授業を担当した講義名】 以下は、講義名ではなく、講義題名である。 「戦後日本農村の変化と女性—1960 年代‘嫁’世代に注目して—」（日本語：通訳付） 2012 年 6 月 15 日、午前 9 時～11 時 30 分、政治学研究員 313 教室（華中師範大学・中国農村問題研究センター教員および大学院政治学研究院学生を対象）。 ”Food security based on personal relationships: two systems in Japan.” Special Lecture at Chulalongkorn University, Thailand, 13:00 – 15:00, July 6th, 2012. （チュラロンコーン大学社会科学研究所教員および大学院政治学研究科学生を対象）。		

【教育、研究面の成果】

中国湖北省武漢市にある華中師範大学には中国で唯一の農村社会問題を専門とする研究センター（中国農村問題研究中心）がある。非派遣者（秋津）はその研究センターの学術顧問でもあるので、センター教員の支援をえながら、研究交流・教育と研究調査を実施した。

研究交流・教育面では、当研究所の第十六期“高原讲坛”（Advanced Lecture）として、研究所および学内関連教員、大学院生を対象にして、戦後日本農村における農家女性の地位変化と起業との関連について講義をおこなった。その内容は、戦後の農村女性の歴史を「60年代嫁世代」に焦点をあてて変化を描き出すというものであったが、聴講していた中国農村女性の研究者から、中国においても同様の経験をした世代を「80年代嫁世代」として定式化できるのではないかという意見が出された。東アジア農村のジェンダー問題を比較研究するための重要な足がかりを作ることができたといえる。

また、大学に隣接する日本語専門学校にて、研究体験や日本事情などについての概説的な講義をおこなった。

研究面では、武漢市からそれぞれ車で2時間半程度の距離にある黄石市陽新県、武穴市で短い農村現地調査をおこなった。それぞれ1泊2日の訪問であったため、今後の調査研究を見すえた予備的調査であったが、各村が農業專業合作社を組織して特産品開発に努力していることと、他方では出稼ぎによって得た収入によって農家家屋の新築（建設途中のものも含めて）が急速に進んでいることが印象的であった。

タイでは、前半はバンコクに滞在し、後半は所属はチュラロンコーン大学におきながら、北タイに出張するかたちで、チェンマイ県、チェンライ県にて研究調査を実施した。

研究交流・教育面では、6月18日、19日にバンコク市内で開催された第4回タイ社会学会議（The 4th National Congress of Sociology）に参加し、そこに出席していた社会学者らと情報交換をおこなった。また、6月26日、27日にはチュラロンコーン大学で開催された契約農業（Contract Farming）に関する研究集会に参加し、研究者らと情報交換をおこなった。この集会には契約農業の問題点を指摘する農業者たちも参加しており、同時に研究調査の機会にもなった。7月6日には、チュラロンコーン大学社会科学研究所教員および大学院生を対象として、Food Securityに関する講義をおこなった。この講義は、国家レベルではなく、地域や家族レベルのFood Securityを題材にしており、次に述べるタイでの調査研究と大きく関連している。

研究調査はまず、タイにおける農産物を通じた産消の直接的関係の進展状況について実施した。農産物を通じた直接的産消関係は、現在では有機農産物を中心に展開している。バンコク郊外の有機農産物直売所を訪問するとともに、以下に述べるこうしたオルタナティブなフードシステムの拡大を支援する諸団体や会社でインタビュー調査をおこなった。

BioThai は生物多様性、持続可能な農業とフードシステム、農民とコミュニティの権利の推進を基本課題としている団体であり、有機農産物の直接的取引関係を推進している。

Worker's Quality of Life and Development Programme のなかの Sustainable Alternative

Development Association は、農業者の権利という観点から契約農業を批判しているが、その延長上にオルタナティブな農産物取引の形態を模索している。Lemon Farm は有機農産物、有機産品をあつかう会社でバンコク市内に 9 つの店舗を展開しており、事業は拡大中である。営利を主目的とするのではなく社会的起業であることを企業理念としており、食べ物を通じて環境と健康問題に取り組んでいる。

タイ北部では、チェンライ県のチェンコーンを訪問し、地元根付いた河川環境保護 NGO の活動状況について情報収集した。この NGO は非派遣者（秋津）が過去に 4 回ほど通って調査研究をおこなった団体である。現在、チェンコーンではメコン川をまたぐ橋が建設中であり、完成すればラオスとの国境の町として、観光や物流の拠点になる可能性が高い。しかし、経済発展は環境と地元文化の破壊にもつながる恐れがあるため、この NGO はいかに持続可能なツーリズムを構想していくかについて、地元行政も巻き込んだ活動をおこなっている。

チェンマイは、タイ国内でもとくに有機農業の盛んな地域であり、NGO の ISAC (Institute for a Sustainable Agriculture Community) やチェンマイ大学農学部が、農業者の教育も含めた有機農業の推進活動をおこなっている。市内 2 カ所の有機農産物直売所を訪問し、運営者と農業者にインタビューをおこなった。

教育面では 2 度の講義を通じて、アジア共通の問題を提示とその分析方法の教示をおこなうことができた。研究面において、将来的にはアジア地域におけるフードシステムを通じた親密的関係の創造について研究を展開する構想であるが、そのための予備的調査研究として大きな成果を得た。